

DIGITAL IMAGE INNOVATION

[特集]

エプソンのこれからを支える商品群、
その強さを徹底分析!!!

インクジェットプリンタ「Colorio me:」(カラリオ ミー)

女性が使いやすいプリンタ「Colorio me:」(カラリオ ミー)新登場

p4

カラーレーザー オフィリオプリンタ「LP-9000C」

オフィスで話題の小さな強い味方!! 実力を検証!!

p6

大画面液晶プロジェクションTV「LIVINGSTATION」

大画面の映像の迫力をそのままプリント!! こんなテレビ見たことない!!

p8

経営理念

お客様を大切に、地球を友に、
個性を尊重し、総合力を発揮して
世界の人々に信頼され、社会とともに発展する
開かれた会社でありたい。
そして社員が自信を持ち、
常に創造し挑戦していることを誇りとしたい。

(エプソンは経営理念を世界の14の言語に翻訳し、グループ全体で共有しています。)

目次

株主の皆様へ	1
特集：エプソンのこれからを支える商品群、 その強さを徹底分析!!!	4
インクジェットプリンタ「カラリオ ミー」	4
カラーレーザー オフィリオプリンタ「LP-9000C」	6
大画面液晶プロジェクションTV「LIVINGSTATION」	8
商品ラインナップ	10
事業別セグメントの営業の概況	12
経営トピックス	14
環境活動	16
連結決算の概要	18
単体決算の概要	19
グローバル事業展開	20
会社情報／株式情報	21

本文中、セイコーエプソングループにつきましては「エプソン」、
セイコーエプソン(株)につきましては「当社」と記載しております。

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、平素はエプソンの事業運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2003年度事業報告書をお届けいたしますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
草間 三郎

2004年3月期の業績

エプソンは、インクジェットプリンタにおいて、国内では写真高画質と長期保存性能を両立させた「つよインク」を搭載した新商品を投入し、海外の「DURABrite」とともに、写真保存性に優れたインクという新たな切り口から商品の差別化を行いました。また、本格的な写真対応オールインワン型マルチファンクションプリンタ「PM-A850」を発売し、日本市場のマルチファンクションプリンタへの移行を加速させました。レーザープリンタでは、国内において小型・軽量で低価格のA3カラーレーザープリンタ「LP-9000C/LP-7000C」を発売し、設置スペースやコストの問題からモノクロプリンタを使い続けているオフィスの置き換え需要を促す戦略を推進しました。映像機器事業においては、今後の

成長が期待できる液晶プロジェクションTVビジネスを開始しました。電子デバイス事業においては、市場成長性が高くエプソンに技術的な強みのあるカラー液晶ディスプレイやカラーLCDドライバに経営資源を集中するとともに、固定費削減活動や調達コストダウン活動の推進、ディスプレイ事業におけるモノクロSTN液晶ディスプレイ製造拠点の閉鎖、三洋電機株式会社との液晶ディスプレイ事業統合の合意など、将来を見据えた事業構造の改革に注力しました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は1兆4,132億43百万円(前期比6.9%増)、営業利益は774億01百万円(同56.8%増)、経常利益は736億88百万円(同76.7%増)、当期純利益は380億30百万円(同204.0%増)となりました。

中期経営計画“Action07”を公表

中長期基本構想“SE07”を制定してから1年以上経過しましたが、2004年3月に米国でプリント機能付き大画面液晶プロジェクションTV「LIVINGSTATION」を発売したことに加え、インクジェットプリンタでは「カラリオ ミー」に代表される「ホームDPE」を具現化する新商品を投入するなど、ビジョンの実現に向けて着実に歩んできました。そして、“SE07”を実現するための具体的なアクションプランとして、中期経営計画“Action07”を2004年3月に公表しました。

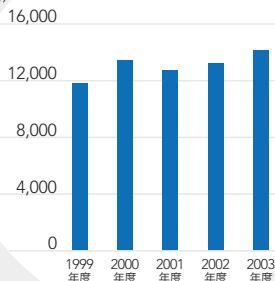
プリンタでは、デジタルカメラやカメラ付き携帯電話が普及するなか、“Hello, New Photo”をキーワードに家庭で撮影したさまざまな写真コンテンツをパソコンを通さずに、家庭にいながら簡単にプリントして気軽に楽しめる「ホームDPE」の実現を目指しています。

今後、この「ホームDPE」を推進する商品を投入し、新しいデジタルフォトライフを提案していきます。プロジェクターでは、エプソンが世界に先駆けて開発した液晶プロジェクターの基幹部品である高温ポリシリコンTFT液晶パネルやこれまで培ってきた光学技術を活かし、ホームプロジェクターや大画面液晶プロジェクションTVを核にホーム市場への参入を図ります。液晶ディスプレイでは、携帯電話向けの液晶パネルにおける世界トップシェアの地位をゆるぎないものとするため、2004年10月1日(予定)をもって三洋電機株式会社と液晶ディスプレイ事業を統合する旨の合弁契約を締結しました。今後、両社の強みを結集してシナジーを追求することで、中・小型向け液晶ディスプレイ市場で圧倒的なプレゼンスを確立していきます。

連結財務ハイライト

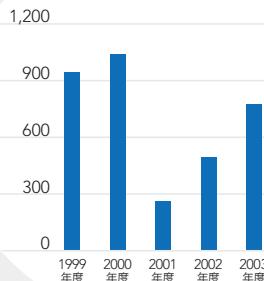
売上高

(億円)



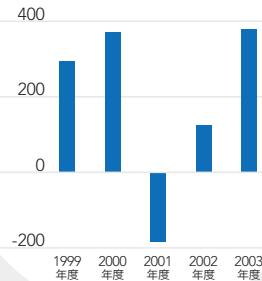
営業利益

(億円)



当期純利益(損失)

(億円)



エプソンならではの商品開発

エプソンは、競争が激化するなかで、今後の成長の機会を確実に捉えていくためには、お客様から真に喜ばれる付加価値の高い商品を創りだしていくことが重要と考えています。エプソンの強みは、ウオッチの製造技術によって培われた精密加工技術などを応用し、完成品の競争力を左右するキーデバイスを内製している点にあります。一方で、お客様から高い満足度を得るためには、お客様が何を求めているかを的確に把握し、それを商品化して市場に提供することが重要であると考えています。今後もマーケットニーズを的確に捉え、エプソンの高い技術力で製品化し、他社と全く違う新しい驚きを感じていただけるような商品を生み出していきます。

企業体質の強化

エプソンは、上場企業としてどのような環境でも安定的に利益を確保できる企業体質の構築が必須と考え、徹底したコスト削減による利益率の向上にも努めています。2年前から取り組んでまいりました調達改善プロジェクトでは、資材の一括調達や部品点数の削減により大幅な調達コストの削減を達成しましたが、今後はこの取組みを一層深化させ、製造原価や販売管理費の削減を目的とした総原価率の低減に取り組んでいきます。

信頼される企業になるために

エプソンは、社会の公器として安定した収益を確保することは当然のこととして、お客様、お取引先、株主・投資家、地域社会、従業員など、すべてのステークホルダーの方から信頼を得られなければ企業の存続はありませんと考えています。この考え方を実現するため、経営のチェック機能や遵法機能の強化、企業倫理の遵守を実践することに加え、CS (Customer Satisfaction) ・品質向上、環境対応などについても積極的に取り組んでいます。

また、株主の皆様への利益還元も重要な責務であると認識しており、安定した配当を継続することを基本としつつ、今後の事業戦略に応じた資金需要および業績や財務状況などを総合的に勘案して利益配分を行う所存であります。なお、当期の配当につきましては、1株につき9円の期末配当を行い、先に実施しました中間配当とあわせて、前期に引き続き1株につき年間で18円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2004年6月
代表取締役社長

草間 三郎

女性が使いやすいプリンタ 「Colorio me:」(カラリオ ミー)新登場

「カラリオ ミー」は、“女性が使いやすいプリンタ”を作るため、女性だけのプロジェクトチームにより商品企画されました。“女性にとって使いやすい操作性” “女性が欲しくなるデザイン性”と
いった開発ポイントに加え、『女性が自分で使うプリンタ。だから自分で選んで欲しい』という想いを込めてネーミングしました。

「カラリオ ミー」は、取っ手のついた持ち運びに便利なコンパクトでかわいいデザイン、シンプルな操作性、高画質で色褪せに強いクオリティといった特長を備えています。例えば、子供部屋でお子様と一緒に、あるいは、キッチンやダイニングで食事の支度をしながら、家中どこでも手軽にデジタルカメラやカメラ付き携帯電話で撮影した画像をパソコンなしでプリントできます。リビングでテレビとつないで、家族みんなで写真を楽しむ、そんな日常生活の中に生きてくるフォトプリンタです。



つよインク

ここが強み!

せっかくプリントした写真が色褪せてしまっただけでは楽しさが半減してしまいます。エプソンは、高い光沢と美しい発色を保持しながら、色褪せの原因となるオゾンや光から写真を守り、高画質プリントを長期間保存できる「つよインク」を開発しました。つよインク効果でプリントアウトしたお気に入りの写真が「きれい」で「長持ち」しますので、写真を部屋に飾ったり友達と交換したり、いろいろなホームフォトプリントが楽しめます。



オフィスで話題の 小さな強い味方!! 実力を検証!!

ビジネスでのコミュニケーション能力を高めるために、オフィス文書のカラー化が進んでいます。一方で、設置スペースやコストの問題から、いまだにモノクロレーザーを使う場面が多いのも事実です。エプソンは、オフィスのモノクロからカラーへの置き換えを一気に加速するため、世界最小*1、最軽量*1、クラス最速*2を実現したカラーレーザー オフィリオプリンタ「LP-9000C」を発売しました。「LP-9000C」は、新開発エンジンの搭載により、従来機に比べて約半分のコンパクトボディと印刷指令から出力完了までのすべての処理のスピード化を実現しました。さらに、モノクロ出力時にはモノクロレーザーに匹敵する低ランニングコストを実現。すでに設置しているモノクロレーザーから無理なく置き換えられるようになりました。

※1 A3サイズ対応カラーレーザープリンタの設置面積および消耗品を含んだ質量での比較:2003年10月20日現在(当社調べ)

※2 標準価格20万円以下のA3サイズ対応カラーレーザープリンタとして:2003年10月20日現在(当社調べ)



従来機「LP-7800C」との比較

ここが強み!

世界最小、最軽量を実現したカラーレーザー オフィリオプリンタにはエプソンのウオッチの製造で培ってきた精密加工技術、光学技術が活かされています。光学系にDI (Double Incident) を採用した新開発の「4Cスリムエンジン」と新開発のETカートリッジ・感光体の採用により描画部を小型化、さらに、紙送りだけでなく、印刷指令から出力完了までのすべての処理をスピードアップし、A3カラーレーザーとしては画期的な小型化・軽量化を実現しました。



大画面の映像の迫力を そのままプリント!!こんなテレビ見たことない!!

現在、ホーム市場では、放送やDVDなど映像コンテンツのデジタル化、ハイビジョン化が進むにつれて、薄型で高輝度の大画面TVのニーズが急速に拡大しています。エプソンは、長年培ってきた液晶プロジェクション技術を活かし、家族と過ごすリビングでの新しい楽しみ方を提案する商品として、大画面・ハイビジョン対応を普及価格帯で実現した液晶プロジェクションTV「LIVINGSTATION」を2004年3月より北米で先行して販売を開始し、日本でも発売しました。「LIVINGSTATION」は、プリンタ機能を搭載しているので、ご家庭のリビングで高画質の大画面映像を楽しむだけでなく、記憶に残る映像やお気に入りのシーン、さらにはデジタルカメラで撮影した画像なども手軽に印刷するといった新しい楽しみ方が可能になります。



高温
ポリシリコン
TFT液晶パネル

ここが強み!

「LIVINGSTATION」の最大の強みは、PDPや液晶などの他の方式と比べて高精細な大画面を普及価格帯で提供できることにあります。これを可能にしたのは、エプソンがこれまで液晶プロジェクター事業で培ってきた液晶プロジェクション技術です。エプソンが世界に先駆けて開発した液晶プロジェクターの基幹部品である高温ポリシリコンTFT液晶パネルと光学エンジンをを用いてスクリーンの後ろから透過させて映像を見せることで、明るく高解像度の大型ディスプレイを低コストで実現しました。



商品ラインナップ

プリンタ



写真フィルムからデジタルカメラまであらゆる写真印刷ニーズに対応した世界初の本格的マルチファンクションプリンタカラリオ「PM-A850」



全8色顔料「つよインク」で待望の光沢顔料実現。カラリオ最高品位モデル「PX-G9000」



リビングにもキッチンにも置ける、コンパクトで手軽なダイレクトプリンタ「Colorio me!」(カラリオ ミー)



デジタルカメラやカメラ付き携帯電話から、パソコンなしでも手軽に写真プリントができるカラリオ プリンタ「PPM-D750」



ビデオの録画予約をするような手軽な感覚でプリントが楽しめるカラリオ「PPM-D1000」(今夏発売予定)



世界最小・最軽量・クラス最速のA3カラーレーザー オフィリオプリンタ「LP-9000C」



顔料インク「つよインク」を搭載したA2プラスサイズ対応のデスクトップタイププリンタ「MAXART PX-6000」



業務用ならではの耐久性とコンパクトサイズを合わせ持つ業務用小型カラーインクジェットプリンタ「TM-C100」



写真ビジネスを変革する本格的業務用写真出力システム「CRYSTARIO」(クリスタリオ)

プロジェクター



画質のみならずプロジェクターの設置環境や視聴環境の幅をさらに広げたホームプロジェクターdreamio(ドリームイオ) [EMP-TW10H]



「準備」するから「投写」「片づける」まで、「使いやすさ」を追求した液晶プロジェクター [EMP-81] [EMP-61]



大画面・ハイビジョン対応を普及価格帯で実現した液晶プロジェクションTV [LIVINGSTATION]

入力機器



高精細、高密度、光学解像度4800dpiを実現。カラリオ・スキャナシリーズ最高峰モデル [GT-X700]



パソコンを介さずに高画質なフィルム&紙焼きスキャン・保存・プリントが可能なマルチ・フォトスキャナ [PhotoPC Factory F-3200] (今夏発売予定)



世界初のレンジファインダーデジタルカメラ [R-D1]。世界のレンズ資産を活用し、新しい写真創造の可能性を提供 (今夏発売予定)

電子デバイス



低消費電力で動画の録画・再生可能なカメラ付き携帯電話向け動画対応表示コントロールLSI "Mobile Graphics Engine" [S1D13732]



ホームシアター向けプロジェクター用「高温ポリシリコンTFT液晶パネル (HTPS)」。ホームシアター向けプロジェクター市場をさらに高画質化へ。



世界最小・低電圧動作、プラスチックモールド技術とセラミックパッケージ技術を融合した新パッケージ構造採用の32.768kHz水晶発振器 [SG-3040LC]

事業別セグメントの営業の概況

■情報関連機器

情報関連機器事業セグメントにおきましては、写真保存性を前面に出したインクや、経済性の高い各色別体方式インクカートリッジなど、消耗品によるインクジェットプリンタの差別化戦略に力を入れたほか、モノクロレーザープリンタのカラー機への置き換え戦略の推進による拡販活動や、プロジェクションTVなどホーム向け映像機器商品の強化を行いました。

情報画像事業におきましては、レーザープリンタ（消耗品を含む、以下、各種プリンタにおいて同じ）は、カラー機の販売増加とモノクロ機を含めた本体稼動台数の増加により消耗品数量が増加したことから増収となりました。インクジェットプリンタは、シングルファンクションプリンタ本体が数量減と価格下落の影響を受けましたが、マルチファンクションプリンタ本体の数量増およびインクカートリッジの数量増があったことから、売上高は若干の増収となりました。スキャナはスキャナ機能を有するマルチファンクションプリンタへの販売の移行が進んでいるため減収となりました。これらの結果、情報画像事業全体では若干の増収となりました。

映像機器事業におきましては、モニタ・モジュールはモニタ完成品の売上減などにより、大幅な減収となりました。新規参入したホーム市場向けプロジェクターによる効果もあり液晶プロジェクター全体では

数量を伸ばしたものの、低価格化進行の影響を受けて減収となりました。これらの結果、映像機器事業全体では減収となりました。

システムデバイス事業およびパーソナルコンピュータ事業等におきましては、システムデバイス事業において、北米市場における小切手電子処理機能搭載プリンタが好調であったことや欧米での最終顧客ダイレクトアプローチ活動により販売価格を維持できたことにより、ターミナルモジュールが増収となり、システムデバイス事業およびパーソナルコンピュータ事業全体でも若干の増収となりました。

情報関連機器事業セグメントの営業利益につきましては、主としてインクジェットプリンタの市場価格低下の影響により、減益となりました。

以上の結果、当連結会計年度の情報関連機器事業セグメントの売上高は9,203億79百万円（前期比0.5%増）、営業利益は459億01百万円（同42.9%減）となりました。

■電子デバイス

電子デバイス事業セグメントにおきましては、携帯電話のカラー化・高機能化に合わせた新商品の投入により、市場のニーズをとらえる一方で、固定費削減や事業構造の改革に力を入れました。

ディスプレイ事業におきましては、携帯電話市場が

好調に推移するなか、海外携帯電話のカラー画面化の進展に対応してモノクロSTN液晶ディスプレイの生産を縮小しカラー液晶ディスプレイにシフトした結果、MD-TFD液晶ディスプレイおよびカラーSTN液晶ディスプレイが数量増効果により大幅な増収となり、ディスプレイ事業全体でも大幅な増収となりました。

半導体事業におきましては、海外携帯電話のカラー化の進展により平均単価の高いカラーLCDドライバの数量が増加したこと、カメラ搭載など携帯電話の高機能化をとらえた画像処理用半導体の数量が増加したことにより、大幅な増収となりました。

水晶デバイス事業におきましては、携帯電話やデジタルスチルカメラ向けに水晶振動子やリアルタイムクロックモジュールの数量が伸びたことから、大幅な増収となりました。

電子デバイス事業セグメントの営業利益につきましては、各事業で売上高が増加したこと、原価低減活動によるコストダウンの成果および減価償却費の減少により、大幅な採算改善を実現しました。

以上の結果、当連結会計年度の電子デバイス事業セグメントの売上高は4,411億52百万円(前期比24.5%増)、営業利益は406億20百万円(前連結会計年度は280億00百万円の営業損失)となりました。

■精密機器

精密機器事業セグメントにおきましては、厳しい市場環境のなか、顧客ニーズに合った商品の開発やコストダウン活動を実施する一方で、ウオッチ事業における国内生産拠点集約を決定するなどの構造改革も進めました。

ウオッチ事業におきましては、高価格帯商品である戦略ブランド品が堅調で、平均販売単価は上昇しましたが、主力商品である中価格帯商品を中心に数量が減少しました。光学事業におきましては、プロジェクター向けの光学デバイスが増加し、FA機器事業におきましては、半導体市場の回復にともないICハンドラの販売数が増加したため、精密機器事業セグメント全体の売上高は若干の増収となりました。

精密機器事業セグメントの営業利益につきましては、ウオッチ事業におけるコストダウン活動や、FA機器事業の受注増により、増益となりました。

以上の結果、当連結会計年度の精密機器事業セグメントの売上高は811億02百万円(前期比1.7%増)、営業利益は28億10百万円(同336.1%増)となりました。

経営トピックス

液晶プロジェクションTVで ホームTV市場へ本格参入

現在、ホームTV市場では、デジタル化、ハイビジョン化の急速な進展により、薄型で高解像度の大画面TVのニーズが急速に増えています。エプソンは、2004年3月上旬より北米市場に「LIVINGSTATION」のブランド名でカラープリンタを搭載した液晶プロジェクションTVを投入し、ホームTV市場へ本格参入しました。今回、新たに開発したホーム市場向けTVは、PDPや液晶といった他方式に比べて高精細な大画面を低価格で提供できる液晶プロジェクション方式を採用しており、エプソンに蓄積されている液晶プロジェクション技術が活かされています。エプソンは、今後もデジタル情報社会に向け画像と映像の融合を実現した商品を投入し、人々の暮らしを彩り、豊かにすることを目指していきます。

三洋電機株式会社と液晶ディスプレイ事業の 統合について基本合意

当社は、三洋電機株式会社との間で、両社の液晶ディスプレイ事業を統合する旨の基本合意書を2004年3月24日に締結しました。この基本合意書の締結を受けて、両社で検討を重ねた結果、当社の子会社(三洋エプソンイメージングデバイス株式会社)を承継会社として、当社の対象事業は吸収分割の方法により、三洋電機株式会社、鳥取三洋電機株式会社および株式会社三洋LCDエンジニアリングの対象事業は営業譲渡の方法により、2004年10月1日(予定)をもって統合する旨の合併契約書を5月6日に締結しました。

今回の統合は、当社と三洋電機各社の得意分野である小型化・高画質化・高精細化・量産化技術を結集し、互いのシナジーを追求することで、より高性能でコストパフォーマンスの高い液晶ディスプレイを供給し、中・小型液晶ディスプレイ市場で圧倒的なプレゼンスを確立することを目的としています。

なお、統合後の三洋エプソンイメージングデバイス株式会社に対する両社の出資比率は、当社が55%、三洋電機株式会社が45%となります。

中期経営計画“Action07”を公表

当社は、2004年3月24日、中期経営計画“Action07”（2006年度までの3ヶ年計画）の概要について公表しました。

2006年度の目標（連結）

売上高	17,700億円
経常利益率	9%以上
フリーキャッシュフロー	1,500億円 (2004年度から2006年度までの累計)
実質借入金残高	2007年度末にゼロ
設備投資計画	3,200億円 (2004年度から2006年度までの累計)

(注) この目標値には、三洋電機株式会社との液晶ディスプレイ事業の統合にともなう影響額は加味されていません。

当社は、2003年1月に2007年に向けての中長期基本構想として“SE07”を策定し、会社の目指す方向を“Digital Image Innovation”と決めました。“SE07”のなかでは、エプソンの核となるプリンタ事業(i1 imaging on paper)、プロジェクター事業(i2 imaging on screen)、ディスプレイ事業(i3 imaging on glass)の3つの事業領域に経営資源を集中することとし、これら各事業の成長戦略を“EPSON 3i 戦略”と称しています。また、それらを支えるエプソン独自のデバイス技術は、コアデバイス事業(i0 imaging support devices (core devices))と位置付け、既存市場における競争力強化と完成品事業への貢献を目指していきます。

今回の中期経営計画“Action07”は、この中長期基本構想“SE07”を実現するための具体的なアクションプランとして、2006年度までの3ヶ年について策定したものです。

環境活動

海外生産拠点12社においてゼロエミッションレベル1(再資源化100%)を達成

エプソンの海外生産拠点12社は、2004年3月にゼロエミッションレベル1(再資源化100%)を達成しました。これにより、2003年度末までに国内事業部・関係会社28拠点および海外生産拠点21拠点すべてにおいてゼロエミッションレベル1達成という、当社が2001年に策定した中期環境総合施策の目標を実現しました。

代表取締役社長 草間 三郎が「2003年 井上 皓EHS賞」を受賞

2003年12月、当社代表取締役社長 草間 三郎が、SEMI(Semiconductor Equipment and Materials International)主催の「2003年 井上 皓EHS賞」を受賞しました。この賞は半導体産業および社会に対しEHS(Environmental・Health・Safety)分野での顕著な功績に与えられるもので、ビジネスを発展させ革新的な製品を製造すると同時に、環境安全の強化を実現したことが評価されました。本受賞は、日本人としては初めてのものとなります。



代表取締役社長
草間 三郎

プロジェクター業界初、 エコリーフ環境ラベルのシステム認定取得

2004年2月、プロジェクター事業において、社団法人産業環境管理協会の定量的環境情報を開示するエコリーフ環境ラベルのシステム認定を取得しました。プロジェクター分野での取得はエプソンが初めてとなります。併せて、液晶プロジェクター「EMP-74」および「EMP-54」のエコリーフを公開しました。すでにインクジェットプリンタ事業では2003年10月にシステム認定を取得し、カラーインクジェットプリンタ「PX-V600」のエコリーフを公開しています。

トーマツ審査評価機構実施の環境格付けで 「AA」と評価される

2004年3月、当社は、株式会社トーマツ審査評価機構が実施した環境格付けにおいて、「AA」と評価されました。これは、環境報告書発行企業449社を対象として、各企業が発行する最新の環境報告書とホームページによる公開情報を基に格付けを実施するものです。2003年度での「AAA」認定は1社、「AA」はエプソンを含め4社が認定されています。

第13回地球環境大賞において環境大臣賞を受賞

2004年2月、当社は、日本工業新聞社主催の「第13回地球環境大賞顕彰制度」において環境大臣賞を受賞しました。この受賞は、2010年度のエネルギー使用量を、絶対量で1997年度比60%削減するCO₂の大幅な削減目標を策定(世界連結ベース)し、その具体策として、現在の巨大工場をコンパクト工場に転換する独自の抜本的生産プロセス革新構想(拡張型ミニマムFab構想)を打ち出したことが評価されたものです。

連結決算の概要

連結貸借対照表の要旨

科目	2003年度 (2004年3月31日現在)	2002年度 (2003年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	7,097	6,468
現金及び預金	2,662	1,943
受取手形及び売掛金	2,103	2,182
たな卸資産	1,558	1,674
その他	809	710
貸倒引当金	△37	△42
固定資産	4,973	5,507
有形固定資産	3,930	4,427
建物及び構築物	3,761	3,782
機械装置及び運搬具	4,694	4,729
工具、器具及び備品	1,768	1,779
土地	521	537
その他	123	119
減価償却累計額	△6,939	△6,522
無形固定資産	231	269
投資その他の資産	811	810
投資有価証券	390	359
その他	427	460
貸倒引当金	△7	△8
資産合計	12,070	11,976

(注)金額は記載単位未満を切り捨てています(以下、同じ)。

連結損益計算書の要旨

(単位:億円)

科目	2003年度 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	2002年度 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)
売上高	14,132	13,224
営業利益	774	493
経常利益	736	417
税金等調整前当期純利益	650	316
当期純利益	380	125

(単位:億円)

科目	2003年度 (2004年3月31日現在)	2002年度 (2003年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	4,181	4,946
支払手形及び買掛金	1,323	1,159
短期借入金	634	1,437
1年以内に返済予定の長期借入金	473	702
未払金	817	774
その他	932	871
固定負債	3,720	4,190
長期借入金	3,467	3,969
その他	252	221
負債合計	7,901	9,137
(少数株主持分)		
少数株主持分	25	26
(資本の部)		
資本金	532	125
資本剰余金	795	102
利益剰余金	2,995	2,648
その他有価証券評価差額金	30	1
為替換算調整勘定	△209	△65
自己株式	△0	△0
資本合計	4,143	2,813
負債、少数株主持分及び資本合計	12,070	11,976

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:億円)

科目	2003年度 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	2002年度 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,826	1,595
投資活動によるキャッシュ・フロー	△653	△1,079
財務活動によるキャッシュ・フロー	△409	91
現金及び現金同等物に係る換算差額	△35	3
現金及び現金同等物の増加額	728	609
現金及び現金同等物の期首残高	1,922	1,313
現金及び現金同等物の期末残高	2,651	1,922

単体決算の概要

貸借対照表の要旨

科目	2003年度 (2004年3月31日現在)	2002年度 (2003年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	5,259	4,640
現金及び預金	1,881	1,257
受取手形及び売掛金	1,753	1,702
たな卸資産	662	796
その他	962	904
貸倒引当金	△0	△20
固定資産	5,313	5,731
有形固定資産	3,263	3,574
建物及び構築物	1,420	1,535
機械及び装置	994	1,187
土地	515	528
その他	333	323
無形固定資産	156	183
投資その他の資産	1,893	1,973
投資有価証券	275	243
関係会社株式	1,193	1,231
その他	425	499
貸倒引当金	△0	△0
資産合計	10,573	10,371

(単位:億円)

科目	2003年度 (2004年3月31日現在)	2002年度 (2003年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	3,468	4,058
支払手形及び買掛金	1,624	1,401
短期借入金	400	1,101
1年以内に返済予定の長期借入金	445	657
未払金	647	639
その他	351	259
固定負債	3,541	4,006
長期借入金	3,438	3,858
その他	103	148
負債合計	7,010	8,065
(資本の部)		
資本金	532	125
資本剰余金	795	102
利益剰余金	2,205	2,076
その他有価証券評価差額金	29	1
自己株式	△0	△0
資本合計	3,562	2,306
負債資本合計	10,573	10,371

損益計算書の要旨

(単位:億円)

科目	2003年度 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	2002年度 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)
売上高	10,773	10,141
営業利益	297	83
経常利益	315	112
税引前当期純利益	234	20
当期純利益	161	11

利益処分計算書

(単位:百万円)

科目	2003年度 (株主総会承認日 2004年6月25日)	2002年度 (株主総会承認日 2003年6月27日)
当期末処分利益	15,847	2,695
任意積立金取崩高	442	471
これを次のとおり処分いたしました。		
配当金	1,767	1,366
1株につき9円		
役員賞与金	-	195
任意積立金	9,828	145
次期繰越利益	4,694	1,459

(注) 1. 2003年10月30日の取締役会決議に基づき、1,767百万円(1株につき9円)の中間配当を実施しました。

2. 役員賞与については、当事業年度より発生時に費用処理しています。

グローバル事業展開



■本社および主な事業所

本 社	本 店
広丘事業所	富士見事業所
諏訪南事業所	塩尻事業所
松本南事業所	伊那事業所
村井事業所	島内事業所
日野事業所	豊科事業所
松島事業所	酒田事業所
松本事業所	高木事業所
神林事業所	千歳事業所

■国内関係会社 35社

エプソン販売株式会社
 東北エプソン株式会社
 エプソンダイレクト株式会社
 他 32社

■海外関係会社 74社

統括会社
 U.S. Epson, Inc. (地域統括)
 Epson Europe B.V. (地域統括)
 Epson (China) Co., Ltd. (地域統括)
 Epson Singapore Pte. Ltd. (販売統括)

販売拠点
 Epson America, Inc.
 Epson Electronics America, Inc.
 Epson (U.K.) Ltd.
 Epson Deutschland GmbH
 Epson Europe Electronics GmbH
 Epson France S.A.
 Epson Italia s.p.a.
 Epson Iberica, S.A.
 Epson Korea Co., Ltd.
 Epson (Shanghai) Information Equipment Co., Ltd.

Epson Hong Kong Ltd.
 Epson Taiwan Technology & Trading Ltd.
 Epson Australia Pty. Ltd.

生産・開発拠点
 Epson Portland Inc.
 Epson El Paso, Inc.
 Epson Research and Development, Inc.
 Epson Telford Ltd.
 Suzhou Epson Co., Ltd.
 Epson Precision (Hong Kong) Ltd.
 Singapore Epson Industrial Pte. Ltd.
 P.T. Indonesia Epson Industry
 Epson Precision (Philippines), Inc.
 Epson Precision (Malaysia) Sdn. Bhd.
 他 47社

(2004年3月31日現在)

会社情報

■本社 〒392-8502 長野県諏訪市大和三丁目3番5号
TEL：0266-52-3131(代表)

■本店 〒163-0811 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号
新宿NSビル
TEL：03-3348-8531(代表)

■資本金 532億04百万円

■創立 1942年5月18日

■従業員数(2004年3月31日現在)

連結：84,899人
単体：12,839人

■グループ会社数(2004年3月31日現在)

110社
国内：36社(当社を含む)
海外：74社

■主要事業

情報関連機器(各種プリンタおよび消耗品、カラーイメージスキャナ、液晶プロジェクター、ミニプリンタ、PCなど)、電子デバイス(中・小型液晶ディスプレイ、CMOS LSI、水晶振動子など)、精密機器(ウオッチ、プラスチック眼鏡レンズ、FAなど)、その他の開発、製造、販売、サービス

■ホームページアドレス <http://www.epson.co.jp/>

■役員一覧(2004年6月25日現在)

取締役会長	安川 英昭	取締役	橋爪 伸夫
取締役副会長	服部 靖夫		加々美 健雄
取締役社長(代表取締役)	草間 三郎		小松 宏
取締役副社長(代表取締役)	木村 登志男		上脇 修
(代表取締役)	丹羽 憲夫		平野 精一
(代表取締役)	花岡 清二		碓井 稔
常務取締役	両角 正幸		内田 健治
	大月 康正	常勤監査役	濱 典幸
	赤羽 正雄		大前 昌義
	矢島 虎雄		木代 俊彦
	久保田 健二	監査役	山本 恵朗
			秋山 富一
			石川 達哉

株式情報

■株式の状況(2004年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	607,458,368株
発行済株式の総数	196,364,592株
株主の総数	40,047人

■大株主の状況

株主名	所有株式数 (千株)	議決権比率 (%)
青山企業株式会社	20,318	10.34
三光起業株式会社	14,288	7.27
第一生命保険相互会社	7,800	3.97
株式会社みずほコーポレート銀行	7,593	3.86
服部 靖夫	7,144	3.63
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	7,085	3.60
服部 禮次郎	7,060	3.59
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	6,423	3.27
セイコー株式会社	6,205	3.15
みずほキャピタル株式会社	5,956	3.03

(注) 1. 所有株式数は千株未満を切り捨てています。

2. 議決権比率は小数点以下第3位を切り捨てています。

■株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
利益配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
名義書換代理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインバスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

セイコーエプソン株式会社

〒392-8502 長野県諏訪市大和 3-3-5

Tel: 0266-52-3131 (代表)

<http://www.epson.co.jp/>



この事業報告書は再生紙および大豆油インキを使用しています。